

# 稿 KŌCHŪ 虫

## カタモンハナノミの徳之島の記録

高桑 正敏

カタモンハナノミ *Mordellaria humelaris* NOMURA は1960年に奄美大島で採集された1♀に基づき記載されたが、その後この種の採集例を聞いたことがなかった。筆者は奄美諸島徳之島より持ち帰ったタブ類 *Machilus* の立枯れ材より本種を脱出させたので報告しておく。

1♂, 徳之島犬田布岳 (材採取: 23-26. I. 1972, 脱出: 横浜, 28. V. 1972)

上記の標本は、原記載と比較すると体が小さく(頭と尾節板を除いた長さが2.6mm), わずかに体は細く(上翅の幅は前胸の幅とほぼ等しい), 触角はより長く(前胸の後角を明らかに越える), また北隆館の原色日本昆虫大図鑑Ⅱの図と比較すると中央後方の黄色微毛から成る帯ははるかに太く発達するなどいくつかの差が見られるが、これらは♀の差によるものとみなした。

蛇足ながら、上記個体が脱出した立枯れ材からは1972~1973両年に多数のヨツモンハナノミ *Variimorda ihai* *ihai* CHŪJŌ も脱出した。

(〒236 横浜市金沢区六浦町3577)

## 石垣島におけるカミキリ2種

矢野 立志

筆者は沖縄県石垣島にて、記録しておくべきと思われる下記2種のカミキリを採集しているので報告する。

### 1. タイワンニセクガタカミキリ

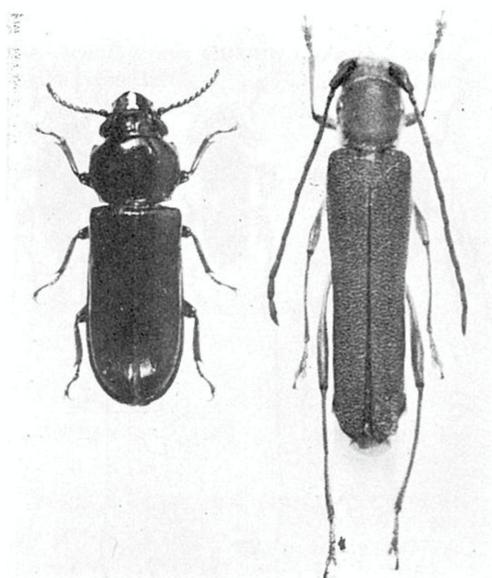
*Parandra formosana* MIWA et MITONO

1♀, 石垣島オモト岳, 29. VII. 1975

本種は日本では石垣・西表両島でそれぞれ1~数頭ずつの記録があるようだが、最近はまだ採集例を聞かなかった。上記の個体はオモト岳山中(中腹付近)で、モクダチバナ生木の枯死部にあった空洞中に落ちていた死骸で、内臓・腹部背板などはアリに食べられていた。

(写真左)

なお、本個体と奄美大島(八津野)産のアマミニセクワガタカミキリ *P. shibatai* HAYASHI とを比較したが、頭部および前胸背の形がやや異なること、体が黒味を帯びること以外には特に差異はなく、小島・林(1969)\*で述べられている“上翅の2対の縦すじ”はタイワンニ



セクワガタばかりでなくアマミニセクワガタにも同様に見られた。

### 2. ムモンチャイロホソバネカミキリ

*Thranis rufescens* (BATES)

1♀, 石垣島オモト岳, 20. VII. 1975

オモト岳中腹で、早朝(7時半頃)葉上に静止していたもの。本種の同島における記録は最近、蟹江昇氏により報告されている\*\*が、筆者も採集しているので記録しておく。(写真右)

\*) 小島圭三・林匡夫(1969): 原色日本昆虫生態図鑑Ⅰ, カミキリ編, p.2, pl.1, fig.2, 保育社

\*\*) 蟹江昇(1976): 月刊むし61号, p.28

(〒734 広島市皆実町1-18-40)

## 御蔵島でキイロアラゲカミキリを採集

下村 徹

キイロアラゲカミキリ *Penthides rufoflavus* (HAYASHI) は、1956年8月8日、三重県平倉演習林で採集された1♀を基に新属新種 *Hirakura rufoflava* HAYASHI として記載された<sup>1)</sup>が、その後 *Hirakura* 属は MATSUSHITA (1933) の創設した *Penthides* 属とシノニムであることが判ったため、本種の学名は *P. rufoflavus* と変更された<sup>2)</sup>。本種は原記載以降、奄美大島にて数頭、また最近はトカラ列島中之島でも2♀♀が得られている<sup>3)</sup>が、個体数はきわめて少ないようで、他には採集例を聞かない。

筆者はこれまでに記録のなかった伊豆諸島御蔵島にて

本種を得たので報告しておきたい。

1♂, 御蔵島川田付近, 22. VII. 1974, 下村徹採集  
生葉のピーティングによる。

今までに♂の確かな採集例がないようなので, 体の特長を略記しておく; — 頭部と前胸の前縁部および両側は黒褐色。前胸のその他の部分・小楯板・上翅は赤みがかった黄褐色。触角と肢は黒褐色。

頭部・触角・肢はあらく点刻され, 頭部では黄褐色の微毛がやや密に生え, 触角・肢には黒褐色の微毛が密生する。また, 頭部・触角・肢にはかなり長い黒褐色毛が疎生するが, 触角では第1~3節にほぼ限られ, 第4~11節は微毛のみとなる。

前胸は頭部に比べ幅が狭く, やや横に長い長方形(縦横の比=4:5)で, 前縁と基部は同じ幅。前胸はなめらかで, 浅く大きな点刻が不規則にあり, 細くやや長い黄褐色毛が波状に前胸背をおおっているが, 両側に近づくにつれ短かい毛となる。

小楯板は舌状。上翅は基部の幅の2倍以上の長さで, 翅端は丸くなる。全体が赤みがかった黄褐色で, 前胸と同様に上翅の表面はなめらかで光沢をもつ。全体に浅く大きな点刻が不規則にあり, やや立った長くきわめて細い黄褐色毛が密生している。

体の下面はすべて黒褐色で, 金色の微毛が密生する。

体長5.5mm。触角は体長の約1.4倍。触角各節の比は  
3.0:0.5:3.4:2.8:2.5:2.3:2.1:2.0:1.8:1.5:



#### 編集後記

かなり前より, 会誌の発行が(大幅に)遅れることを常としていましたが, 今回, 今年分の ELYTRA No.1 と“さやばね”を一緒に出すことができたので, まがりなりにも正常な状態になりました。

昨年あたりから, いつも編集に追われて, なにか悪いことでもしているような, みじめな日々を送ってきましたが, これでやっと人間らしい生活にもどることができるので, ホッとしています。いつも追われていると, 精神衛生上にもよくないので, この次からは……予定通りに……きちんと……発行していく……つもり……です。

次の ELYTRA, Vol.4, No.2は11月に発行の予定! 原稿はお早めに。  
(藤田 宏)

1.6。

以上, 小楯板の形状は異なるが, 他の頭部・前胸・上翅・触角・各足の色, 体毛の色と状態, 体の下面の色等は HAYASHI<sup>1)2)</sup>の記載とよく一致する。小楯板の形の差はあるいは雌雄によって多少違うのかもかもしれない。

なお, 近年八重山諸島石垣島および西表島で得られている *Penthides* 属の1種<sup>3)</sup>は, 台湾の *P. flavus* に近い種で, 近く楨原寛氏により新種として記載される予定と聞く。入江・草間(1976)<sup>4)</sup>でも指摘されているように, 草間(1973)<sup>5)</sup>が本種の分布に石垣・西表島を入れたのはこの未記載種の誤りであり, また小島・林(1969)<sup>6)</sup>では本種の学名が *P. flavus* とされ, 分布に台湾を含め, *P. rufostavus* と台湾産の *P. flavus* を同一の種として扱ったが, この処置は HAYASHI<sup>2)</sup>により別種として訂正されている。

末筆ながら, 石垣島産の *Penthides* sp. を比較のために貸して下さった藤田宏氏に感謝する。

- 1) HAYASHI (1957): Ent. Rev. Japan, 8, p.47, fig. 3
- 2) HAYASHI (1972): Ent. Rev. Japan, 24, p.41
- 3) 高桑正敏 (1975): 月刊むし54号, p.27, figs.
- 4) 入江平吉・草間慶一 (1976): 月刊むし59号, p.13, pl. fig. 17
- 5) 草間慶一 (1973): 日本産カミキリの生態と分布一覽表, 新しい昆虫採集案内Ⅲ, p.125, 内田老鶴圃新社
- 6) 小島圭三・林匡夫 (1969): 原色日本昆虫生態図鑑 I, カミキリ編, p.141, pl. 45, fig. 5, 保育社  
(〒140 品川区大井3-1-17)

#### ELYTRA Vol. 4, No. 1

昭和51年7月25日 印刷

昭和51年7月31日 発行

編集者 藤田 宏

発行者 草間 慶一

発行所 日本鞘翅目学会

Japanese Society  
of Coleopterology

東京都台東区東上野4-26-8

福田惣一方 (〒110)

c/o, FUKUDA, 4-26-8,

Higashi-Ueno, Taitō-ku,

Tōkyō-city, Japan

印刷 (株)大和印刷